

宿泊型ゲストハウスにおけるイベントおよび 体験プログラムの実施状況

松 原 小夜子*

Implementation Status of Events and Experience Programs in Guest Houses

Sayoko MATSUBARA

1. はじめに

1.1 宿泊施設としてのゲストハウス

本稿は、日本における宿泊型ゲストハウスの特質を把握しようとする研究の第3報である。一連の研究では、ゲストハウスを、旅館業法上、簡易宿所に分類される宿で、①素泊まりを基本とする、②ドミトリーと呼ばれる相部屋がある、③台所や居間など何らかの共用空間がある、この3つに該当する宿と定義している。

近年増加傾向にあるゲストハウスは、学問的にも様々な方面から注目される存在であり、既報でも述べてきたように、観光学、地理学、心理学、都市計画学、建築学などの分野で研究が行われつつある。まずは、ゲストハウスの軒数を捉えようとした研究がある。石川と山村（2014）は、低廉な宿泊施設予約サイト「Hostel World」と、国内の宿泊施設公式ホームページリンク集サイト「旅行と宿のクリップ」から、「ゲストハウス」「バックパッカーズ」「ホステル」と自称している宿を2012年5月時点で353軒抽出している。松原（2016）は、ゲストハウス紹介サイト「ふらっと」、前掲の「旅行と宿のクリップ」を中心に、他のゲストハウス関連サイトも検索して、先に述べた定義の宿を2015年8月末時点で522軒であるとの結果を示している。

ゲストハウスの特質を捉えようとした研究も行われている。片桐ほか（2015）、氏川ほか（2017）、林と藤原（2012）、澤田と岡（2012）、長田ほか（2015）では、ゲストハウスが、安価な宿というに留まらず、宿泊者も含め地域にかかわる人々の交流の場を生み、着地型観光のゆるやかな人材育成の場ともなり、まちづくりへの関与やまちを活性化する効果もあり、交流型ツーリズムを通じての自己実現の契機ともなること等々、多彩な特徴と魅力を有する存在であることが示されている。これらの研究は、いずれも少数の宿泊者等への聞き取り調査による結果と考察であることから、松原（2017）では、古民家ゲストハウス8軒における宿泊者252人の行動と会話内容を把握することによって、宿の立地状況により

* 椋山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科

違いはあるものの、宿泊者同士あるいは宿泊者と地域の人々との様々な交流が行われていること、観光情報のみならず、生き方や人生観、仕事や趣味、家族などに関する多彩な会話が交わされていることを示している。

1.2 各種イベント・体験プログラム実施の場としてのゲストハウス

これらの研究からは、ゲストハウスの宿泊施設としての特徴が浮かびあがってくるが、同時に、ゲストハウスでは、必ずしも宿泊を伴わない各種のイベントや体験プログラムが企画、実施されていることも見逃せない。ここでいう「イベント」とは、宿が企画する行事のうち、宿泊者などの交流、各種の学びなど、体験を伴わないものを指し、「体験プログラム」とは、同じく、衣食住の暮らし方やモノづくり、農作業、アウトドア関連など、実際の体験を伴うものを指している。

ゲストハウスにおけるイベントを取り上げた研究は2例ある。石川(2012)は、長野県の、地域密着型のゲストハウス事例を取り上げ、食事を伴う宿のイベントを観察調査し、ゲストハウスが、旅行者の宿泊先としてだけでなく、宿泊者と地域の人々、あるいは地域の人々同士の交流の場としての役割も担っていることを指摘し、小林と森永(2015)は、併設施設が有る、またはイベントが開催されている場合を「地域に開かれたゲストハウス」と定義し、典型4事例を選定して聞き取り調査を行い、地域の人が宿を訪れるきっかけづくりや、都会の人が地域文化を体感できることをねらいにイベントが実施されており、地域に開かれたゲストハウスは、単なる旅行者の宿ではなく、多様な人々に開かれ地域文化を体感できる「まちの宿」としての役割を持っていると考察している。限られた事例の結果ではあるが、これらの研究では、ゲストハウスが、宿のみならず、宿泊者が地域の文化を体感できる場、地域の人々が交流できる場ともなっていることが示されている。

ゲストハウスにおける体験プログラムを取り上げた研究は行われていないが、農山漁村の民泊や民宿などを利用した農業体験や宿泊体験に関する研究は行われている。加藤ほか(2004)は、青森県のグリーン・ツーリズムに関する意識調査から、大都市部(東京)の30代以下層では、農家民宿および農村体験を指向する傾向にあり、20代を中心とした年代層が特に高い関心を示していると指摘し、加藤ほか(2002)は、四万十川流域を事例とした交流型地域づくりに関する考察において、20代など比較的若い層は、体験・交流型観光への意識が高く、田舎の生活が味わえる宿や、農業や森作りが体験できる宿を望む人が多いとのアンケート調査結果を示し、大野他(1998)は、白川村合掌集落に関する意識調査から、20代などの若い層の多くが「民宿の人とのふれ合い」「火の入った囲炉裏を囲んでの食事」を望んでおり、若い層には「そば打ち」「合掌家屋の屋根の葺き替え」「農作業」などの農村文化の体験が人気であることなどを示している。また、鈴木(2012)は、農林漁家で宿泊体験をした小学生への意識調査から、簡易宿所の許可を得た小規模な農林漁家では子どもの生活態度変化に対する効果が高く、稲作や野菜作等の体験をしっかりと織り込んだ体験内容を持つ受け入れ主体ほど効果が高いことを示している。これらの研究からは、30代以下の若い層、とりわけ20代の若者は農村体験への関心が高く、実施後の満足度も高いことが読み取れ、20代から30代の若い層の利用が多いゲストハウスの体験プログラムにおいても、何らかの効果が生まれる可能性が示唆される。

1.3 本研究の目的

上記のような関連研究は、ゲストハウスが、各種のイベントや体験プログラム実施の場としても何らかの役割を果たす可能性があることを示唆しているが、研究は緒についたばかりであり、今後の検証が求められるところである。

こういった点を踏まえ、本報を含む今後の研究では、イベントや体験プログラム実施の場としてのゲストハウスの特質を、イベント等実施状況の把握や、参加者の行動・意識の把握などによって明らかにしていきたいと考える。そこでまず本報では、研究の端緒として、2017年8月末時点の全国のゲストハウス軒数を把握するとともに、それらのゲストハウスにおけるイベントおよび体験プログラムの実施状況を捉えることとしたい。そして今後は、今回の結果を基に、イベント等の典型事例を抽出し、それらの実施状況や参加者の行動・意識、イベント等の効果などに関する研究を進めていく予定である。

2. 方法

2.1 全国のゲストハウス抽出

ゲストハウスの定義は冒頭に述べたとおりであるが、宿（以下ではゲストハウスを指す）によって様々なタイプが存在しているため、抽出にあたっては、以下の点に留意した。①素泊まりを基本としつつ、朝食のみ選択可能な「B&B」方式や、朝夕2食を選択可能なものは含めた。②ドミトリ形式以外に、個室を選択できるものも含めた。③「 hostel」「バックパッカーズ」「宿」などの名称であっても、上記定義にあてはまるものは含めた。④宿が「ゲストハウス」という名称を付けていても、上記定義にあてはまらないものは除いた。⑤冒頭で示した3つの条件に該当していても、「部屋貸し」のみ、「一棟貸し」のみの場合や、カプセルベッドタイプの場合は除いた。⑥ユースホステル協会に属する「ユースホステル」は除いた。⑦「ライダーハウス」と称する宿泊場所のみを提供するものは除いた。⑧一旦開業されていたが、現時点では休業しているものも数件あったが、これらは除いた。⑨以前は旅館や民宿形式で営業していたが、ゲストハウス形式での営業に変更したものは、ゲストハウス形式での営業開始時点を開業年とした。⑩ゲストハウス形式の継続であってもリニューアルオープンしたものは、リニューアルオープン時点を開業年とした。

ゲストハウスの抽出方法は、ゲストハウス関連の各種サイトを参照して各宿のHPにアクセスし、先に述べたような定義や条件に該当する宿を抽出するとともに、各宿が立地する都道府県市町村名と開業年を捉えた。これらが宿のHPでは把握できない場合は、当該宿のフェイスブックやブログ、当該宿を紹介している各種予約サイト、宿泊体験者のブログなどを参照した。参照したサイトは、ゲストハウスを紹介する「ふらっと」「Footprints」「ひげむう」、宿泊施設HPリンク集「旅行と宿のクリップ」の中の「民宿/ゲストハウス」タイプ、ゲストハウスが多く立地する京都市のゲストハウスを紹介する「京都で遊ぼう STAY」「京都ゲストハウス総合案内所」、沖縄県のゲストハウスを紹介する「沖縄ゲストハウス・安宿一覧」などである。

2.2 イベントおよび体験プログラムの抽出

イベントおよび体験プログラムの実施状況については、抽出した宿のHPやフェイス

ブック、ブログなどにアクセスし、開業以降のそれらの記述を精査して、可能な限り実施されているイベントや体験プログラムをリストアップした。そして、イベントについては、実施内容によって次の5つに分類した。「交流・親睦」—夕食会、歓迎会など、「季節の行事」—お花見、クリスマス会など、「芸術・スポーツ」—音楽ライブ、スポーツ観戦など、「各種の学び」—講演会、講習会など、「地域行事」—地域の祭りへのイベント参加などである。同じく、体験プログラムについても5つに分類した。「暮らし方・モノづくり」—料理、クラフトなど、「芸術・スポーツ」—茶道、サイクリングなど、「美容・健康」—ヨガ、体操など、「自然」—自然環境体験ツアーなど、「生産」—農業体験などである。

3. 結果と考察

3.1 全国のゲストハウス軒数

2017年8月末時点のゲストハウス軒数を都道府県別開業年別に示したものが表1である。全国で789軒という結果となった。なお、松原(2016)では、2015年8月末時点で522軒と報告しているが、今回の抽出により軒数に変更があったので、この点を示しておきたい。まず522軒中、リスト上削除すべき宿が12軒あった(重複6軒、個室のみ5軒、入力ミス1軒)。また、2015年8月末時点で既に開業されていたが、各種検索サイトに掲載されていないなどの理由で抽出できていなかった宿が71軒あった。これらを足し引きすると、2015年8月末時点では計581軒であることがわかった。したがって、2015年8月末～2017年8月末までの2年間に208軒の開業があったことになる。

789軒について都道府県別の軒数をみると、沖縄県が最も多く104軒、次いで京都府が100軒(うち京都市が98軒を占める)である。次いで、北海道64軒、大阪府59軒、東京都58軒などが多く、さらに長野県の35軒と続く。

開業年別にみると、まず全国では、2009年以降に増加傾向がみられ、2013年には79軒開業され、2014年には107軒へと急増し、2015年にはこれまでに最も多い136軒が開業されている。なお、2015年に比べると2016年は少ない結果であるが、開業後の年数が短いことから、宿から情報が発信されていない、あるいはゲストハウス関連サイトに掲載されていない場合もあり得るので、今後増加する可能性があると考えられる。今後も開業軒数の把握を続けていきたい。

表1の右端に2014年以降の開業割合を示しているが、2014年から2017年8月末までの4年弱で47.7%(376軒)を占めており、近年、全国的にゲストハウスが急増していることが確認できた。2014年以降の開業割合を地域別にみると、東北、関東、北陸、中国、四国では全国平均よりも高く6割を超え、東海でも6割弱を占めており、これらの地域では、2014年以降の開業が盛んであることがわかる。

一方、甲信と九州は全国平均に近い約5割、北海道と近畿は全国平均よりも低い4割強、さらに沖縄県は15.4%と最も低い値である。北海道では、2014年以前から、いわゆる「とほ宿」と呼ばれる簡易な宿が存在しており、近畿では京都市内で、甲信では長野県で、2014年以前からゲストハウスが開業されてきた。沖縄県は、2007年以前の開業が46軒(44%)であるなど、国内で最も早くからゲストハウスが存在してきた地域である。

このように、自然環境を生かした観光地域である北海道や沖縄県、長野県、歴史観光都

宿泊型ゲストハウスにおけるイベントおよび体験プログラムの実施状況

表1 都道府県別開業年別ゲストハウス軒数

(単位：軒)

	計	~2007年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2014~(%)
北海道 計	64	11	1	8	4	4	3	6	14	5	6	2	42.2
青森県	3						1	1	1				33.3
岩手県	0												
宮城県	9					2			3	1	2	1	77.8
秋田県	2							1			1		50.0
山形県	2								1			1	100.0
福島県	3	1				1					1		33.3
東北 計	19	1				3	1	2	5	1	4	2	63.2
茨城県	1									1			100.0
栃木県	7				2	1		1	1	1		1	42.9
群馬県	1	1											0.0
埼玉県	2								1			1	100.0
千葉県	8	1				1		1	1	4			62.5
東京都	58	7		2	1	3	4	1	8	20	9	3	69.0
神奈川県	14	1			2	1	1	5	1	1	1	1	28.6
関東 計	91	10		2	5	6	5	8	12	27	10	6	60.4
新潟県	12	1		1			1	1	1	1	5	1	66.7
富山県	4								3	1			100.0
石川県	14			2			2	3	2	1	4		50.0
福井県	4		1				1			2			50.0
北陸 計	34	1	1	3			4	4	6	5	9	1	61.8
山梨県	9	2			1	1			1	3	1		55.6
長野県	35	5	1	1	1	2	1	7	7	6	3	1	48.6
甲信 計	44	7	1	1	2	3	1	7	8	9	4	1	50.0
岐阜県	18			1	1	2	1	1	3	4	3	2	66.7
静岡県	12	1	1		2	2		1	2	3			41.7
愛知県	13		1	1				2		6	3		69.2
三重県	8					2		2	1	1	2		50.0
東海 計	51	1	2	2	3	6	1	6	6	14	8	2	58.8
滋賀県	1							1					0.0
京都府	100	20	2	5	8	8	11	11	15	14	2	4	35.0
大阪府	59		3	1	5	2	5	7	3	12	17	4	61.0
兵庫県	16			1		3	1	2	1	3	1	4	56.3
奈良県	21		3	1	3	5	2			4	2	1	33.3
和歌山	9	2			2		1	1	1	1		1	33.3
近畿 計	206	22	8	8	18	18	20	22	20	34	22	14	43.7
鳥取県	9						1		3	5			88.9
島根県	7							2	2	2			57.1
岡山県	13					1	2	2	5	1	2		61.5
広島県	19	1	1			1	5		5	2	2	2	57.9
山口県	5							1	1	2	1		80.0
中国 計	53	1	1			2	9	5	16	12	5	2	66.0
徳島県	6	1	1			1				3			50.0
香川県	22	2	1			1	3	2	2	6	4	1	59.1
愛媛県	13					1	2	1	3	3	2	1	69.2
高知県	6						2			1	3		66.7
四国 計	47	3	2			3	7	3	5	13	9	2	61.7
福岡県	23		1		2	1		4	2	3	7	3	65.2
佐賀県	1											1	100.0
長崎県	13		1	1	1			1		3	4	2	69.2
熊本県	13	1		2	2		3	1	1	2		1	30.8
大分県	9	1	1					2	1		3	1	55.6
宮崎県	5		1					3				1	20.0
鹿児島県	12	1		1	1	3	1	1	1	2		1	33.3
九州 計	76	3	4	4	6	4	4	12	5	10	14	10	51.3
沖縄県	104	46	4	12	7	7	8	4	10	6			15.4
全国 計	789	106	24	40	45	56	63	79	107	136	91	42	47.7

2017年は8月末時点の軒数である。

市である京都など、観光が盛んな地域では、近年のみならず、以前からゲストハウスが存在してきたことがわかる。

3.2 イベント・体験プログラム実施状況

全国のゲストハウス789軒について、イベントあるいは体験プログラム（以下ではイベント等と称す）の実施状況を示したものが表2である。イベント等を実施している宿の割合は、789軒中415軒（52.6%）であり、半数強の宿において何らかの形で実施されていることが把握できた。これを地域別にみると、東北が78.9%と最も多く、次いで中国64.2%、沖縄県60.6%、関東60.4%と続く。

イベント等の実施内容をみると、全国ではイベントと体験プログラムの「両方」が29.4%と最も多く、「イベントのみ」は14.1%、「体験プログラムのみ」は9.1%であり、イベントの方が若干多い結果であった。これを地域別にみると、「両方」実施が多い地域は、東北63.2%、関東45.1%、中国37.7%、「イベントのみ」が相対的に多い地域は、東海19.6%と四国17.0%、「体験プログラムのみ」が相対的に多い地域は、沖縄県26.9%であった。沖縄県では、シュノーケリング、ダイビング、カヤックなど海のスポーツが多く行われていることの現れである。

イベント等実施率および「両方」実施率ともに高い東北、関東、中国地域に共通する特徴として、2014年以前に開業された宿は比較的少ないが、その中にイベント等実施の盛んなモデルとなるような宿が存在していることが挙げられる。松原（2016）等のオーナーへの聞き取り調査によれば、宿の開業や運営にあたっては、近隣地域の既存の宿を参考にする傾向があるといえるが、近隣の既存の宿でイベント等が盛んであれば、新たに開業する宿もその影響を受ける可能性があると考えられる。これに該当する都府県、モデルとなった可能性のある宿の開業年を挙げると、東北では、宮城県（2011年・宿U）、秋田県（2013年・宿Y）、福島県（2011年・宿T）、関東では、栃木県（2010年・宿N）、群馬県（2004年・宿B）、千葉県（2013年・宿S）、東京都（2010年・宿T、2012年・宿N、2013年・宿H）、神奈川県（2011年・宿K）、中国では、島根県（2012年・宿S）、岡山県（2011年・宿Y、2012年・宿R）、広島県（2012年・宿R）などである。これらの地域以外でも、山梨県（2007年・宿K）、兵庫県（2013年・宿H）、熊本県（2010年・宿H、2012年・宿A）などが該当している。

3.3 イベントの種類別実施状況

実施されているイベントの内容により、「交流・親睦」「季節の行事」「各種の学び」「地域行事」「美容・健康」「芸術・スポーツ」に分類し、分類ごとに、イベントの種類数を示したものが表3である。種類数とは、例えば「交流・親睦」であれば、「持ち寄り食事会」「開業記念周年祭」などを各1種類として数えたものである。繰り返し実施されているイベントも多数あり、実際の実施回数はさらに多い。

全体として「交流・親睦」が772種類と最も多く、飲食を伴う交流イベントが主であり、一品持ち寄りパーティー、日本酒を味わう会など飲食に特色を持たせたもの、移住者の歓迎会、スタッフや宿泊者等の誕生会といった人にかかわる集まりなど、多彩である。「季節の行事」も、225種類行われており、忘年会や新年会、お花見、クリスマスパーティー

宿泊型ゲストハウスにおけるイベントおよび体験プログラムの実施状況

表2 イベント・体験プログラム実施状況

(単位：%)

	GH(n)	実施GH	イベ・体験	イベのみ	体験のみ	なし	イベ計	体験計
北海道 計	64	48.4	26.6	10.9	10.9	51.6	37.5	37.5
青森県	3	66.7	33.3		33.3	33.3	33.3	66.7
岩手県	0							
宮城県	9	66.7	55.6	11.1		33.3	66.7	55.6
秋田県	2	100.0	100.0				100.0	100.0
山形県	2	100.0	100.0				100.0	100.0
福島県	3	100.0	66.7		33.3		66.7	100.0
東北 計	19	78.9	63.2	5.3	10.5	21.1	68.4	73.7
茨城県	1	100.0	100.0				100.0	100.0
栃木県	7	71.4	42.9	28.6		28.6	71.4	42.9
群馬県	1	100.0	100.0				100.0	100.0
埼玉県	2	50.0	50.0			50.0	50.0	50.0
千葉県	8	75.0	62.5	12.5		25.0	75.0	62.5
東京都	58	56.9	41.4	8.6	6.9	43.1	50.0	48.3
神奈川県	14	57.1	42.9	14.3		42.9	57.1	42.9
関東 計	91	60.4	45.1	11.0	4.4	39.6	56.0	49.5
新潟県	12	41.7	16.7	25.0		58.3	41.7	16.7
富山県	4	75.0	75.0			25.0	75.0	75.0
石川県	14	50.0	42.9	7.1		50.0	50.0	42.9
福井県	4	50.0	25.0	25.0		50.0	50.0	25.0
北陸 計	34	50.0	35.3	14.7		50.0	50.0	35.3
山梨県	9	66.7	55.6		11.1	33.3	55.6	66.7
長野県	35	40.0	17.1	17.1	5.7	60.0	34.3	22.9
甲信 計	44	45.5	25.0	13.6	6.8	54.5	38.6	31.8
岐阜県	18	44.4	27.8	16.7		55.6	44.4	27.8
静岡県	12	50.0	16.7	16.7	16.7	50.0	33.3	33.3
愛知県	13	46.2	23.1	23.1		53.8	46.2	23.1
三重県	8	50.0	12.5	25.0		50.0	37.5	25.0
東海 計	51	47.1	21.6	19.6	5.9	52.9	41.2	27.5
滋賀県	1	0.0				100.0		
京都府	100	45.0	17.0	18.0	10.0	55.0	35.0	27.0
大阪府	59	47.5	27.1	15.3	5.1	52.5	42.4	32.2
兵庫県	16	56.3	43.8	12.5		43.8	62.5	43.8
奈良県	21	47.6	28.6	14.3	4.8	52.4	42.9	33.3
和歌山	9	44.4	11.1	11.1	22.2	55.6	22.2	33.3
近畿 計	206	46.6	22.8	16.0	7.8	53.4	38.8	30.6
鳥取県	9	44.4	22.2	22.2		55.6	44.4	22.2
島根県	7	85.7	57.1	14.3	14.3	14.3	71.4	71.4
岡山県	13	92.3	53.8	38.5		7.7	92.3	53.8
広島県	19	52.6	31.6	21.1		47.4	52.6	31.6
山口県	5	40.0	20.0	20.0		60.0	40.0	20.0
中国 計	53	64.2	37.7	24.5	1.9	35.8	62.3	39.6
徳島県	6	50.0	16.7	16.7	16.7	50.0	33.3	33.3
香川県	22	40.9	18.2	18.2	4.5	59.1	36.4	22.7
愛媛県	13	46.2	30.8	15.4		53.8	46.2	30.8
高知県	6	33.3	16.7	16.7	16.7	66.7	16.7	16.7
四国 計	47	42.6	19.1	17.0	6.4	57.4	36.2	25.5
福岡県	23	56.5	30.4	21.7	4.3	43.5	52.2	34.8
佐賀県	1	0.0				100.0		
長崎県	13	69.2	46.2	15.4	7.7	30.8	61.5	53.8
熊本県	13	61.5	46.2	7.7	7.7	38.5	53.8	53.8
大分県	9	33.3	11.1		22.2	66.7	11.1	33.3
宮崎県	5	60.0	60.0			40.0	60.0	60.0
鹿児島県	12	33.3	16.7	16.7		66.7	33.3	16.7
九州 計	76	52.6	32.9	13.2	6.6	47.4	46.1	39.5
沖縄県	104	60.6	26.0	7.7	26.9	39.4	33.7	52.9
全国 計	789	52.6	29.4	14.1	9.1	47.4	43.5	38.5

GH：ゲストハウス 実施GH：イベントまたは体験プログラムを実施している GH

イベ：イベント 体験：体験プログラム

表3 都道府県別イベントの種類

(単位:種類)

	GH(n)	イベ GH(n)	交流・ 親睦	季節 行事	交流・親睦 季節行事 /イベGH	芸術・ スポーツ	芸術・ スポーツ /イベGH	各種の 学び	各種の学び /イベGH	地域行事	地域行事 /イベGH	その他
北海道 計	64	24	91	34	5.2	17	0.7	17	0.7	2	0.1	1
青森県	3	1		2	2.0	1	1.0			1	1.0	
岩手県	0											
宮城県	9	6	9	8	2.8	9	1.5	3	0.5	2	0.3	3
秋田県	2	2	7		3.5							
山形県	2	2	21		10.5	1	0.5	1	0.5			
福島県	3	2	6		3.0	1	0.5	2	1.0	1	0.5	1
東北 計	19	13	43	10	4.1	12	0.9	6	0.5	4	0.3	4
茨城県	1	1	5		5.0							
栃木県	7	5	5	3	1.6	4	0.8	5	1.0	2	0.4	
群馬県	1	1	1		1.0							
埼玉県	2	1	2		2.0							
千葉県	8	6	16	2	3.0	5	0.8	2	0.3			1
東京都	58	29	95	33	4.4	32	1.1	11	0.4	10	0.3	4
神奈川県	14	8	19	1	2.5	11	1.4	8	1.0	2	0.3	
関東 計	91	51	143	39	3.6	52	1.0	26	0.5	14	0.3	5
新潟県	12	5	8		1.6	4	0.8	6	1.2	2	0.4	1
富山県	4	3	2	1	1.0	1	0.3	4	1.3	1	0.3	1
石川県	14	7	14	1	2.1	7	1.0	14	2.0	2	0.3	
福井県	4	2	2		1.0			2	1.0			
北陸 計	34	17	26	2	1.6	12	0.7	26	1.5	5	0.3	2
山梨県	9	5	5	5	2.0	3	0.6	1	0.2			1
長野県	35	12	17	3	1.7	13	1.1	8	0.7	1	0.1	5
甲信 計	44	17	22	8	1.8	16	0.9	9	0.5	1	0.1	6
岐阜県	18	8	15	8	2.9	2	0.3	8	1.0	1	0.1	1
静岡県	12	4	2	1	0.8	3	0.8					
愛知県	13	6	18	5	3.8	7	1.2	15	2.5	4	0.7	
三重県	8	3	6	4	3.3	2	0.7	1	0.3	4	1.3	
東海 計	51	21	41	18	2.8	14	0.7	24	1.1	9	0.4	1
滋賀県	1	0										
京都府	100	35	78	27	3.0	25	0.7	6	0.2	9	0.3	2
大阪府	59	25	57	20	3.1	13	0.5	11	0.4	5	0.2	5
兵庫県	16	9	19	4	2.6	12	1.3	2	0.2			1
奈良県	21	9	9	1	1.1	4	0.4	2	0.2			1
和歌山県	9	2	3	1	2.0	2	1.0	1	0.5			
近畿 計	206	80	166	53	2.7	56	0.7	22	0.3	14	0.2	9
鳥取県	9	4	4		1.0	4	1.0	2	0.5			
島根県	7	5	12	1	2.6	4	0.8	4	0.8			1
岡山県	13	12	42	6	4.0	18	1.5	15	1.3	3	0.3	3
広島県	19	10	35	10	4.5	10	1.0	6	0.6	1	0.1	2
山口県	5	2	9		4.5	3	1.5	8	4.0			
中国 計	53	33	102	17	3.6	39	1.2	35	1.1	4	0.1	6
徳島県	6	2	4		2.0	2	1.0					
香川県	22	8	7		0.9	10	1.3	4	0.5	1	0.1	2
愛媛県	13	6	5		0.8	3	0.5	7	1.2			
高知県	6	1	1		1.0							
四国 計	47	17	17		1.0	15	0.9	11	0.6	1	0.1	2
福岡県	23	12	33	12	3.8	11	0.9	8	0.7			2
佐賀県	1	0										
長崎県	13	8	8	5	1.6	9	1.1	6	0.8			
熊本県	13	7	21	7	4.0	5	0.7	3	0.4	3	0.4	
大分県	9	1	1		1.0							1
宮崎県	5	3	5	1	2.0	1	0.3	2	0.7			
鹿児島県	12	4	6		1.5	4	1.0	2	0.5			
九州 計	76	35	74	25	2.8	30	0.9	21	0.6	3	0.1	3
沖縄県	104	35	47	19	1.9	8	0.2	2	0.1	4	0.1	3
全国 計	789	343	772	225	2.9	271	0.8	199	0.6	61	0.2	42

GH: ゲストハウス イベGH: イベントを実施しているゲストハウス

など、季節行事にともなう交流イベントである。「交流・親睦」と「季節の行事」を合わせると997種類となるが、これを、イベント実施宿338軒で除して1軒あたりの種類数を求めると、平均して2.9となる。松原（2017）でも指摘したように、ゲストハウスの大きな特徴は、宿泊者や地域の人など、宿に集う人々の多彩な交流にあるといえるが、イベントの種類からみても、この特徴を反映した結果となった。地域別にみると、イベント実施宿1軒当たりの交流・親睦関連種類数が最も多いのは北海道の5.2であり、東北4.1、関東と中国3.6、九州と東海2.8、近畿2.7などと続く。都道府県別では、山形の10.5が最も多く、北海道5.2、茨城県5.0、広島県と山口県4.5、東京都4.4、岡山・熊本4.0と続く。

交流・親睦関連に次いで多いのが「芸術・スポーツ」の271種類である。芸術では、音楽等ライブ、アート作品等展示会、映画等上映会などの文化的イベントが行われており、スポーツは、スポーツ観戦が主である。イベント実施宿1軒当たりの「芸術・スポーツ」種類数は、全国計では0.8となる。地域による差はあまりないが、中国が1.2と最も多く、次いで関東が1.0、東北・甲信・四国・九州が0.9である。都道府県別では、宮城県・兵庫県・岡山県・山口県が1.5と最も多く、次いで神奈川県1.4、香川県1.3、愛知県1.2、長野県・東京都・長崎県1.1などと続く。

「各種の学び」も199種類あり、英会話等語学講座のほか、各地の旅や地方への移住といった地域の魅力発見に関連する各種セミナー、珈琲の入れ方など飲食関連の講習などが開催されている。イベント実施宿1軒当たりの「各種の学び」種類数は、全国計では0.6となる。地域により差があり、多い地域は、北陸1.5、東海と中国1.1などである。都道府県別では、山口県が最も多く4.0、次いで愛知県2.5、石川県2.0、富山県と岡山県1.3、新潟県と愛媛県1.2と続く。「各種の学び」は、全国のゲストハウスで実施されているわけではないが、地域によって、あるいは宿によって、地域の人々の学びの場ともなる事例が生まれてきていることに注目しておきたい。

「地域行事」は61種類あり、地域の祭りや各種イベントに協力・参加するものが多く、イベント実施宿1軒当たりの「地域行事」種類数は、全国計では0.2となる。全国的に少ない傾向にあるが、東海0.4、東北・北陸・関東0.3が相対的に多い。都道府県別では、三重県が最も多く1.3、次いで青森県1.0、愛知県0.7、福島県0.5、栃木県・新潟県・熊本県0.4などと続く。

「その他」は41種類あり、フリーマーケットなど各種の市が最も多く23種類、各種の複合的イベント（特定の分類に入りきらないもの）9種類、各種の限定販売・サービス6種類、宿の動画作成、夜回り、衣類コンテストなどである。

このように、ゲストハウスでは、これまでの研究でも指摘されてきたような交流機能に関する「交流・親睦」「季節の行事」が行われるとともに、文化や芸術、地域の魅力の再発見につながるような「芸術・スポーツ」「各種の学び」「地域行事」といった多彩なイベントも実施されていることがわかった。

3.4 体験プログラムの種類別実施状況

実施されている体験の内容により、「暮らし方・モノづくり」「生産」「自然」「美容・健康」「芸術・スポーツ」に分類し、分類ごとに、体験の種類数を示したものが表4である。種類数の定義は、イベントの場合と同様である。

表4 都道府県別体験プログラムの種類

(単位：種類)

	GH(n)	体験GH(n)	暮らし・モノ作り	暮らし・モノ作り/体験GH	芸術・スポーツ	芸術・スポーツ/体験GH	美容・健康	美容・健康/体験GH	自然	自然/体験GH	生産	生産/体験GH	その他
北海道 計	64	24	29	1.2	36	1.5	6	0.3	6	0.3	2	0.1	
青森県	3	2	1	0.5	2	1.0			2	1.0			
岩手県	0												
宮城県	9	5	11	2.2	1	0.2	2	0.4			2	0.4	1
秋田県	2	4	1	0.3			2	0.5			2	0.5	
山形県	2	2	12	6.0					1	0.5	4	2.0	
福島県	3	3	20	6.7	4	1.3	2	0.7	5	1.7	2	0.7	
東北 計	19	16	45	2.8	7	0.4	6	0.4	8	0.5	10	0.6	1
茨城県	1	1	1	1.0	2	2.0			1	1.0	1	1.0	
栃木県	7	3	20	6.7	2	0.7					3	1.0	
群馬県	1	1	3	3.0	8	8.0							
埼玉県	2	1	1	1.0									
千葉県	8	5	12	2.4	2	0.4	3	0.6			6	1.2	1
東京都	58	28	39	1.4	27	1.0	9	0.3	3	0.1			9
神奈川県	14	6	10	1.7	5	0.8	6	1.0	3	0.5			
関東 計	91	45	86	1.9	46	1.0	18	0.4	7	0.2	10	0.2	10
新潟県	12	2	7	3.5					1	0.5	6	3.0	1
富山県	4	3	3	1.0	2	0.7	1	0.3					
石川県	14	6	13	2.2	6	1.0	3	0.5	1	0.2	1	0.2	1
福井県	4	1					1	1.0					
北陸 計	34	12	23	1.9	8	0.7	5	0.4	2	0.2	7	0.6	2
山梨県	9	6	12	2.0			1	0.2			5	0.8	
長野県	35	8	10	1.3	11	1.4	5	0.6	1	0.1	5	0.6	2
甲信 計	44	14	22	1.6	11	0.8	6	0.4	1	0.1	10	0.7	2
岐阜県	18	5	24	4.8	4	0.8	4	0.8	4	0.8			
静岡県	12	4	4	1.0	2	0.5	1	0.3			1	0.3	1
愛知県	13	3	14	4.7	3	1.0			1	0.3	2	0.7	
三重県	8	2	5	2.5	1	0.5	1	0.5			1	0.5	
東海 計	51	14	47	3.4	10	0.7	6	0.4	5	0.4	4	0.3	1
滋賀県	1	0											
京都府	100	27	31	1.1	17	0.6	4	0.1	4	0.1	1	0.0	6
大阪府	59	19	22	1.2	18	0.9	8	0.4	4	0.2			1
兵庫県	16	7	14	2.0	4	0.6	4	0.6	6	0.9	4	0.6	
奈良県	21	7	2	0.3	3	0.4	1	0.1	3	0.4	3	0.4	
和歌山県	9	3	1	0.3	2	0.7	2	0.7					
近畿 計	206	63	70	1.1	44	0.7	19	0.3	17	0.3	8	0.1	7
鳥取県	9	2	2	1.0	3	1.5							
島根県	7	5	11	2.2	6	1.2	2	0.4			3	0.6	1
岡山県	13	7	23	3.3	5	0.7	5	0.7			6	0.9	
広島県	19	5	19	3.8	7	1.4	2	0.4	2	0.4	3	0.6	1
山口県	5	1	1	1.0	2	2.0	4	4.0					
中国 計	53	20	56	2.8	23	1.2	13	0.7	2	0.1	12	0.6	2
徳島県	6	2	3	1.5							2	1.0	
香川県	22	5	3	0.6	1	0.2	3	0.6	2	0.4			
愛媛県	13	4	3	0.8	3	0.8	3	0.8	4	1.0			
高知県	6	1							2	2.0			
四国 計	47	12	9	0.8	4	0.3	6	0.5	8	0.7	2	0.2	
福岡県	23	8	18	2.3			3	0.4	2	0.3			
佐賀県	1	0											
長崎県	13	7	9	1.3	6	0.9	6	0.9	1	0.1	2	0.3	
熊本県	13	7	10	1.4	3	0.4	2	0.3	10	1.4	3	0.4	
大分県	9	3	6	2.0	1	0.3					2	0.7	1
宮崎県	5	3	1	0.3	1	0.3	1	0.3					
鹿児島県	12	2	1	0.5	1	0.5							
九州 計	76	30	45	1.5	12	0.4	12	0.4	13	0.4	7	0.2	1
沖縄県	104	55	24	0.4	101	1.8	8	0.1	32	0.6	2	0.0	
全国 計	789	305	456	1.5	302	1.0	105	0.3	101	0.3	74	0.2	26

GH：ゲストハウス 体験GH：体験プログラムを実施しているゲストハウス

宿泊型ゲストハウスにおけるイベントおよび体験プログラムの実施状況

全体として「暮らし方・モノづくり」が456種類と最も多い。蕎麦打ちや味噌仕込みなど食関連、各種染めものや着物・浴衣着付けなどの衣関連、薪割りや古民家改修などの住関連、和紙等のクラフトなど、多彩であり、日本の伝統的な暮らし方やモノづくりに関する体験が多いことが特徴である。体験プログラム実施宿1軒当たりの「暮らし方・モノづくり」種類数は、平均して1.5である。地域によって差があるが、体験実施宿1軒当たりの種類数が最も多いのは東海3.4であり、東北と中国2.8、関東と北陸1.9と続く。都道府県別では、栃木県・福島県の6.7が最も多く、次いで、山形県6.0、岐阜県4.8、愛知県4.7、広島県3.8、新潟県3.5、岡山県3.3などである。

次に多いのは「芸術・スポーツ」の302種類である。芸術では、茶道や生け花、書道、三味線・尺八など、日本の伝統的な文化に関連する体験が多いことが特徴である。スポーツでは、サイクリング、カヤック、シュノーケリング、スノーボード、登山などが多く、サイクリングは全国の宿で実施されており、他の体験は、地域の特性を生かして実施されている。体験プログラム実施宿1軒当たりの「芸術・スポーツ」種類数は、平均して1.0である。地域によって差があり、沖縄県1.8、北海道1.5と多く、両地域は地理的条件を活かしたスポーツ関連体験が盛んであることが特徴である。次いで、中国が1.2で、芸術関連とスポーツ関連の両方が実施されており、関東は1.0で、芸術関係が多い。都道府県別では、群馬県が最も多く8.0（1軒の宿で8種類実施されている）、茨城県・山口県2.0、鳥取県1.5、広島県と長野県1.4、福島県1.3、島根県1.2と続く。

「美容・健康」は105種類あり、各種のヨガが最も多く、各地の宿で実施されており、他には、マッサージや体操、リラクゼーション、エステなどがある。体験プログラム実施宿1軒当たりの「美容・健康」種類数は、平均して0.3である。地域による差はあまりないが、中国0.7、四国0.5が相対的に多い。都道府県別では、山口県が最も多く4.0（1軒の宿で4種類実施されている）、神奈川県と福井県1.0、長崎県0.9、岐阜県と愛媛県0.8、福島県・兵庫県・和歌山県・岡山県0.7、千葉県・長野県・香川県0.6などである。

「自然」は101種類あり、ホテルや紅葉、星空などの鑑賞、周辺の自然環境体験ツアーなどである。体験プログラム実施宿1軒当たりの「自然」種類数は、平均して0.3である。地域による差はあまりないが、四国0.7、沖縄県0.6、東北0.5が相対的に多い。都道府県別では、高知県が最も多く2.0（1軒の宿で2種類実施されている）、福島県1.7、熊本県1.4、青森県・茨城県・兵庫県・愛媛県1.0、山形県・神奈川県・新潟県0.5などである。

「生産」は74種類あり、田植えや野菜収穫などの農業関連、果物狩り、漁業などが主である。体験プログラム実施宿1軒当たりの「生産」種類数は、平均して0.2である。地域による差はあまりないが、甲信0.7、東北・北陸・中国0.6が相対的に多い。都道府県別では、新潟県が最も多く3.0、山形県2.0、千葉県1.2、茨城県・栃木県・徳島県1.0、岡山県0.9、山梨県0.8、福島県・愛知県・兵庫県・大分県0.7、島根県・広島県0.6などである。

「その他」は26種類あり、都市部のツアーが最も多く13種類、各種の複合的体験（特定の分類に入りきらないもの）5種類、占い4種類、忍者体験、寺体験、催眠術体験、親子お泊り体験などである。

このように、体験プログラムにおいても、日本の伝統的な生活文化、自然環境、農業や漁業、地域の魅力などの再発見につながるような「暮らし方・モノづくり」「生産」「自然」「芸術・スポーツ」などと、ヨガやリラクゼーションなどの癒しをもたらす「美容・健康」

といった多彩なプログラムが実施されていることがわかった。

4. まとめ

イベントや体験プログラム実施の場としてのゲストハウスの特質を明らかにする研究の端緒として、全国のゲストハウス軒数やイベント等の実施状況を、ゲストハウス関連各種サイトおよび各宿HPなどを参照しながら捉えたところ、以下の結果を得た。

①今回の抽出の範囲では、2017年8月末時点のゲストハウス軒数は、789軒という結果であった。地域別では、沖縄県と京都市に多く、北海道、大阪府、東京都、さらに長野県と続く。開業年別の軒数では、2014年以降の4年弱で半数近くを占めており、近年、全国的にゲストハウスが急増していることが確認できた。東北、関東、北陸、中国、四国、東海では、近年の開業が多い。一方、自然環境を生かした観光地域である北海道や沖縄県、長野県、歴史観光都市である京都市など、観光が盛んな地域では、近年のみならず、以前からゲストハウスが存在してきたことがわかった。

②イベント等は、789軒中415軒、半数強の宿で実施されていることが把握できた。地域別では、東北が最も多く、中国、沖縄県、関東と続く。イベントと体験プログラムの両方を実施する宿が多いが、沖縄県では、海のスポートに関する体験プログラムが相対的に多いことが特徴である。イベント等実施率および「両方」実施率ともに高い東北、関東、中国地域では、2014年以前に開業された宿の中にイベント等の盛んな宿が存在しており、新たに開業する宿も既存宿の影響を受けた可能性があると考えられる。

③イベントの種類別実施状況では、「交流・親睦」「季節の行事」が合わせて997種類と最も多く、ゲストハウスの大きな特徴である交流機能を反映した結果となった。次いで、「芸術・スポーツ」271種類、「各種の学び」197種類、「地域行事」61種類などであり、文化や芸術、地域の魅力の再発見につながるような多彩なイベントが実施されていることがわかった。

④体験プログラムの種類別実施状況では、「暮らし方・モノづくり」が456種類と最も多く、日本の伝統的な暮らし方やモノづくりに関する体験が多いことが特徴である。次いで、「芸術・スポーツ」302種類、「美容・健康」105種類、「自然」101種類、「生産」74種類などであり、日本の伝統的な生活文化、自然環境、農業や漁業、地域の魅力などの再発見につながるような多彩なプログラムが実施されていることがわかった。

参考文献

- 林幸史、藤原武 2015：旅行者が交差する場としてのゲストハウス—交流型ツーリズムの社会心理学的研究、関西学院大学社会学部紀要（120）、79-87。
石川美澄 2012：地域社会における小規模宿泊施設の役割に関する一考察—長野市善光寺門前のゲストハウスのイベントを事例として、生活学論叢（20）、95-102。
片桐由希子、梶山桃子、東秀紀 2015：都市部の簡易宿所型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究、観光科学研究（8）、61-69。
加藤明人、入田慎太郎、依光良三 2002：交流型地域づくりに関する研究—四万十川流域を事例

宿泊型ゲストハウスにおけるイベントおよび体験プログラムの実施状況

- として、高知大学農学部演習林報告(29), 97-126.
- 加藤幸, 谷口健, 田村義夫 2004: 都市住民のグリーン・ツーリズムに対する意識調査, 農業土木学会誌72(11), 937-940.
- 小林祐太, 森永良丙 2015: 地域に開かれた宿泊型ゲストハウスの実態と可能性に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), 191-192.
- 松原小夜子 2016: 都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態, 相山女学園大学研究論集自然科学篇(47), 95-107.
- 松原小夜子 2017: 古民家ゲストハウスにおける宿泊者の行動と会話内容一人々の交流状況に着目して, 相山女学園大学研究論集自然科学篇(48), 159-180.
- 長田浩幸, 横山俊祐, 徳尾野徹 2015: 宿泊施設型ゲストハウスと地域との連関に関する研究, 日本建築学会大会学術講演梗概集(関東), 911-912.
- 大野功仁郎, 相山道雄, 有本信昭, 荒幡克己, チアニアドリアノ 1998: 白川村におけるグリーン・ツーリズムの研究, 岐阜大学農学部研究報告63, 97-104.
- 澤田彩希, 岡絵理子 2012: 都市型短期滞在型ゲストハウスの地域まちづくりの可能性に関する一考察, 都市計画学会関西支部研究発表会2012, 1-4.
- 鈴木源太郎 2012: 農林漁家宿泊体験における効果的な取組に関する分析, 文部科学省児童意識調査との接合分析による検証, 農業経営研究50(2), 31-36.
- 氏川拓郎, 森傑, 野村理恵 2017: ゲストハウスの滞在者の行動と共用空間のあり方との関係に関する基礎的考察, 日本建築学会大会学術講演梗概集(中国), 575-576.